

遼寧だより（令和8年1月）

■ 1月の実施事項

1/9（金）	賀詞交換会	…（1）
1/19（月）～1/23（金）	富山県写真展	…（2）
1/31（土）～2/1（日）	ハルビン市訪問	…（3）

（1）賀詞交歓会

1月9日（金）に在瀋陽日本国総領事館で、賀詞交換会が行われました。賀詞交換会は、中国東北三省に居住する日本人が集まり、新年の挨拶や交流を行うことを目的に在瀋陽日本国総領事館が毎年開催しているイベントです。中国東北三省の日本人会商工会代表、日系企業関係者、日本の地方政府関係者、学校関係者などが参加しました。

賀詞交換会では、昨年12月に総領事に就任した高田総領事が挨拶し、その後餅つき大会が行われました。完成した餅は、ぜんざいやお雑煮として参加者に振る舞われたほか、富山県の「羽根屋 純米大吟醸 50 翼」をはじめとする日本酒も提供されていました。

中国では、正月といえば春節（旧暦の正月）なので、1月はあまり新年の雰囲気を楽しむことはできませんでしたが、このイベントで新年を楽しむことができ、とても嬉しかったです。



（2）富山県写真展

1月19日（月）から1月23日（金）に大連市内の申貿ビルで、富山県写真展が行われました。この写真展は富山県大連事務所が主催し、富山県の四季折々の美しい写真や富山県の伝統工芸品、日中友好に尽力した松村謙三の紹介パネ

ルを展示したものです。

展覧会では、会期の前半は春・夏の写真を、後半は秋・冬の写真を展示しました。雪の大谷や紅葉の黒部峡谷鉄道の写真が特に人気で、来場者からは「とても美しい」「ぜひ実物を見てみたい」など嬉しい意見もありました。お昼時間には、富山県に関連した商品などが当たる抽選会を実施しました。連日多くの人が列を作るほど人気でした。

1月22日（木）には餅つき大会が行われました。餅つき大会では、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所の浜田所長、申賀ビルの李国新総経理、北陸銀行大連駐在員事務所の田村所長に挨拶いただきました。その後、来場者も参加して餅つき大会が行われ、全員で「ヨイショ」の掛け声をするなど、とても盛り上がりました。完成した餅は、来場者に振る舞われ、きな粉や小豆、砂糖醤油などの調味料が用意されました。

参加者の中には、富山県へ渡航した経験のある人もいました。富山県の思い出を嬉しそうに教えてくれ、私まで嬉しくなりました。



(3) ハルビン市訪問

1月31日（土）から2月1日（日）にハルビン市を訪問しました。ハルビン市は、黒龍江省の省都で、瀋陽から北に約 572 km離れており、高速鉄道で約2時間かかります。中国とロシアを繋ぐ鉄道の開発とともに発展した街であり、街のいたるところにロシア風の建築があります。今回は、「ハルビン氷まつり」と「ソフィア大聖堂」を訪問しました。

ハルビン氷まつりは、多くの氷の彫像の展示や雪上ショーが行われるイベントで、観覧車や500mを超える氷でできた滑り台があり、毎年多くの観光客が訪れます。ハルビン市は冬になると最高気温が-15度ほどであり、氷が溶けることがないため、大規模な氷まつりを開催することができます。夜には彫刻がライ

トアップし、幻想的な雰囲気になります。とても寒かったですが、美しい景色を見ることができ、楽しかったです。

ソフィア大聖堂は、1907年に建てられたロシア風建築の教会です。玉ねぎのような形をしたドームが特徴的で、上から見ると十字架の形になっています。内部を見学することも可能ですが、私が訪問した日は定休日で観ることができませんでした。ハルビン市では至る所でヨーロッパ風の建築を見ることができ、異国情緒あふれる雰囲気を楽しむことができました。

ハルビン市は瀋陽よりも北に位置しており、冬の寒さが厳しいですが、それを逆手にとってイベントを開催し、冬の観光地として人気を博しています。ハルビン市以外にも、東北三省を訪れ、その都市ならではの魅力を学びに行きたいと思います。

